

授業科目名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
神経・筋コース	必修	4	3	2	月～金	日本語		オムニバス			
【担当教員】 秦暢宏（脳神経外科）・木村成志（脳神経内科）・井原健二（小児科） 他											
【科目名の英文】 Brain, Nerves and Muscles											
【授業の概要・到達目標】 神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。											
具体的な到達目標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
構造と機能											
1. 神経系の一般特性											
① 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。											
② 脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。											
③ 脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。											
④ 主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン）とその作用を説明できる。											
⑤ 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。											
⑥ 神経管の分化と脳、脊髄の形成過程を概説できる。											
2. 脊髄と脊髄神経											
① 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。											
② 脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。											
③ 脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢）の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布（デルマトーム）を概説できる。											
3. 脳幹と脳神経											
① 脳幹の構造と伝導路を説明できる。											
② 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。											
③ 脳幹の機能を概説できる。											
4. 大脳と高次機能											
① 大脳の構造を説明できる。											
② 大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野）を説明できる。											
③ 記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。											
5. 運動系											
① 随意運動の発現機序を錐体路を中心として概説できる。											
② 小脳の構造と機能を概説できる。											
③ 大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。											
6. 感覚系											
① 痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。											
② 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。											
7. 自律機能と本能行動											
① 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。											
② 視床下部の構造と機能を内分泌及び自律機能と関連付けて概説できる。											
③ ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。											
診断と検査の基本											
① 脳・脊髄のコンピュータ断層撮影（computed tomography <CT>）・磁気共鳴画像法（magnetic resonance imaging <MRI>）・各種 PET(Positron emission tomography) 検査の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。											
② 神経系の電気生理学的検査（脳波検査、神経誘導電位、筋電図、末梢神経伝導検査）で得られる情報を説明できる。											
③ 脳血管撮影、脳血流シンチグラフィ検査、各種超音波検査の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。											

症候						
① けいれん ② 意識障害・失神 ③ めまい ④ 頭痛 ⑤ 運動麻痺・筋力低下	○	○				
運動失調障害と不随意運動						
① 小脳性・前庭性・感覚性運動失調障害を区別して説明できる。 ② 振戦を概説できる。 ③ その他の不随意運動（ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難（asterixis）、アテトーシス、チック）を概説できる。	○	○				
歩行障害						
① 歩行障害を病態に基づいて分類できる。	○	○				
言語障害						
① 失語症と構音障害の違いを説明できる。	○	○				
頭蓋内圧亢進						
① 脳浮腫の病態を説明できる。 ② 急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。 ③ 脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。	○	○				
発達遅滞						
① 乳幼児の正常な精神運動発達を説明できる。	○	○				
疾患						
脳・脊髄血管障害						
① 脳血管障害（脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、一過性脳虚血発作など）の病態、症候と診断を説明できる。 ② 遺伝的素因、凝固異常などによる脳血管障害の病態を概説できる。 ③ 脳血管障害の予防と治療、急性期・回復期・維持期（生活期）のリハビリテーション医療を概説できる。	○	○				
認知症と変性疾患						
① 認知症をきたす疾患の病型を理解し、症候・病態を説明できる。 ② 錐体外路系疾患の鑑別疾患を理解し、症候・病態を説明できる。 ③ 筋萎縮性側索硬化症を概説できる。 ④ 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症を概説できる。	○	○				
感染性・炎症性・脱髄性疾患						
① 脳炎・髄膜炎、脳症の病因、症候と診断を説明できる。 ② 多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。	○	○				
頭部外傷						
① 頭部外傷の分類を説明できる。 ② 急性硬膜外・硬膜下血腫及び慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。 ③ 重症頭部外傷についての症候と診断、その治療について説明できる。 ④ 頭部外傷後の高次脳機能障害を説明できる。	○	○				
末梢神経疾患						
① 末梢神経障害の病因と病態を理解し、概説できる。 ② 神経筋接合部疾患（Guillain-Barré 症候群など）の病態を理解し、症候・診断を説明できる。 ③ Bell 麻痺の症候、診断を説明できる。 ④ 主な神経障害性疼痛（三叉・坐骨神経痛）を概説できる。	○	○				
筋疾患						
① 炎症性筋疾患を概説できる。 ② 進行性筋ジストロフィーやミトコンドリア病の病因、分類、症候と診断を説明できる。 ③ 神経筋接合部疾患の病態、症候と診断を説明できる。	○	○				

④ 周期性四肢麻痺や内科疾患に伴う筋疾患を説明できる。					
発作性疾患					
① てんかんの分類、診断と治療を説明できる。	○		○		
頭痛					
① 頭痛（一次性頭痛、二次性頭痛、その他の頭痛）の分類、鑑別を説明できる。	○		○		
先天性と周産期脳障害					
① 脳性麻痺の病因、病型、症候とリハビリテーションを説明できる。	○		○		
② 水頭症の症候と治療を説明できる。					
③ 先天性奇形の病態と症候、それぞれの治療について説明できる。					
腫瘍性疾患					
① 主な脳・脊髄腫瘍の診断と分類、症候と好発部位を説明し、病態を概説できる。	○		○		
② 脳腫瘍の集学的治療について概説できる。					
③ 神経皮膚症候群について概説できる。					
脊椎・脊髄疾患					
① 脊髄血管障害、脊髄腫瘍の特異性と診断と分類、症候と好発部位を説明し、病態を概説できる。	○		○		
② 変性性脊椎疾患の症候と好発部位を説明し、病態を概説できる。					
③ それぞれの疾患に対する予防と治療、リハビリテーションなどを概説できる。					
各DPへの関連度（計10）	5		5		

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	神経学概論	脳、脊髄、末梢神経、筋肉 ほか	神経内科・木村	講義
2	神経の診かた	神経学的診察、評価法	神経内科・木村	講義
3	症候学 (1)	高次機能と運動	神経内科・竹内	講義
4	症候学 (2)	感覚と自律神経	神経内科・増田	講義
5	神経解剖	神経局所解剖学	神経内科・木村	講義
6	グループ学習	課題: グループ学習 (神経解剖)	神経内科・全教員	能動
7	グループ学習	発表: グループ学習 (神経解剖)	神経内科・全教員	能動
8	神経生理検査	筋電図、神経伝導検査 ほか	神経内科・藪内(外)	講義
9	神経救急疾患	めまい、しびれ、意識障害、失神 ほか	神経内科・迫(外)	講義
10	内科疾患と神経疾患	ウェルニッケ脳症 ほか	神経内科・安部(外)	講義
11	変性疾患 (1)	脊髄小脳変性症 ほか	神経内科・増田	講義
12	変性疾患 (2)	認知症の鑑別と病態	神経内科・松原(外)	講義
13	変性疾患 (3)	パーキンソン病 (PD) /PD 類縁疾患	神経内科・増田	講義
14	変性疾患 (4)	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) /ALS 関連疾患	神経内科・岡崎(外)	講義
15	神経筋接合部疾患	重症筋無力症、周期性四肢麻痺 ほか	神経内科・花岡(外)	講義
16	筋疾患	筋ジストロフィー、筋炎 ほか	神経内科・中村(外)	講義
17	末梢神経疾患	ギランバレー症候群、ベル麻痺 ほか	神経内科・森(外)	講義
18	てんかん	てんかん、脳波検査	神経内科・竹内	講義
19	脱髄性疾患	多発性硬化症、視神経脊髄炎 ほか	神経内科・角	講義
20	神経感染症	髄膜炎、脳炎、脳症など	神経内科・麻生(外)	講義
21	脳血管障害 (1)	脳卒中の病態と一過性脳虚血発作	神経内科・中道	講義
22	脳血管障害 (2)	さまざまな脳卒中の原因	神経内科・荒川(外)	講義
23	脳血管障害 (3)	血栓溶解療法と血管内治療	神経内科・湧川(外)	講義
24	頭痛	脳神経内科の頭痛	神経内科・竹丸	講義
25	グループ学習	課題: グループ学習 (症例検討)	神経内科・全教員	能動
26	グループ学習	発表: グループ学習 (症例検討)	神経内科・全教員	能動
27	神経放射線 (1)	中枢神経画像 (1)	放射線科・島田	講義
28	神経放射線 (2)	中枢神経画像 (2)	放射線科・島田	講義
29	成長と発達	中枢神経発生、乳幼児の発達	小児科・大川	講義

30	代謝異常症	中枢神経の蓄積病	小児科・井原	講義
31	新生児神経学		小児科・前田(外)	講義
32	小児の脳腫瘍、血管性病変、神経皮膚症候群		小児科・後藤	講義
33	中枢神経感染症・脳炎脳症		小児科・小林	講義
34	筋疾患・ミトコンドリア病		小児科・大川	講義
35	小児期の痙攣性疾患・脳波の基礎	熱性けいれん、てんかん、脳波	小児科・小林	講義
36	ケース検討発表会①	症例テーマを基に能動学習成果発表	小児科・小林	能動
37	ケース検討発表会②	症例テーマを基に能動学習成果発表	小児科・小林/大川	能動
38	ケース検討発表会③	症例テーマを基に能動学習成果発表	小児科・大川/川野	能動
39	脳神経外科学	概論	脳神経外科・秦	講義
40	頭部外傷		脳神経外科・秦	講義
41	脳腫瘍	概論	脳神経外科・秦	講義
42	脳腫瘍	良性脳腫瘍 髄膜腫・後頭蓋窩腫瘍 他	脳神経外科・秦	能動
43	脳腫瘍	神経膠腫	脳神経外科・靱井	講義
44	脳腫瘍	下垂体腫瘍・転移性脳腫瘍・悪性リンパ腫 他	脳神経外科・靱井	講義
45	脳腫瘍	小児脳腫瘍の外科	脳神経外科・札幌	講義
46	脳血管障害	概論	脳神経外科・阿南	講義
47	脳血管障害	虚血性脳卒中	脳神経外科・阿南	講義
48	脳血管障害	出血性脳卒中	脳神経外科・大西	講義
49	脳血管障害	脳動脈瘤・くも膜下出血	脳神経外科・石井(外)	講義
50	脳血管障害	もやもや病	脳神経外科・森重(外)	講義
51	脳血管障害	脳血管内治療	脳神経外科・松下	講義
52	脳血管障害	脳神経のリハビリテーション	脳神経外科・阿南	講義
53	脊椎脊髄外科		脳神経外科・大西	講義
54	機能的脳神経外科	てんかん外科	脳神経外科・松田	講義
55	脳神経外科	画像	脳神経外科・松田	講義
56	脳神経外科	脳神経外科の頭痛	脳神経外科・札幌	講義
57	脳神経外科	小児脳神経外科	脳神経外科・川崎	講義
58	脳神経外科	水頭症	脳神経外科・川崎	講義
59	グループ学習	課題	脳神経外科・川崎/札幌/大西	能動
60	グループ学習	課題	脳神経外科・川崎/札幌/大西	能動
61	グループ学習	発表	脳神経外科・川崎/札幌/大西	能動
62	グループ学習	臨床解剖	脳神経外科・全教員	能動
63	グループ学習	臨床解剖	脳神経外科・全教員	能動
64	グループ学習	臨床解剖	脳神経外科・全教員	能動

【能動学習（アクティブラーニング）の内容】

(小児) 症例を基にしたテーマを設定し、全班に能動学習成果を発表させ、教員が解説する。

(神経内科) 講義の中で実際の臨床症例や神経解剖等を提示し、設問を設ける。

(脳神経外科) 実臨床例をもとにキーワードや重要項目を抽出させ、教員の解説を交え理解を深める。

【その他の工夫】

各講師がアクティブラーニングを意識する

(小児) 講義は総論的事項を中心とする。各論は能動学習の発表会で学習する。

(神経内科) 講義内容に関連した設問を設けることで、能動的な学習を促す。

(脳神経外科) 講義にシェーマや手術動画等イメージ

		しやすい情報を取り入れ、能動的な学習を促す。	
【時間外学修の内容と時間の目安】			
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(30h)。課題についてグループ学習を行い、発表提示を作成する(30h)。		
事後学修	能動学習の内容と講義で学んだ知識を統合する(20h) 講義の知識を系統的に整理して復習する(30h)、試験問題を復習する(3h)。		
想定時間合計	113		
【教科書】			
配布資料を用いる			
【参考書】			
(神経内科) 脳神経内科 改訂5版、著者：神田 隆、出版社：中外医学社、出版年：2024年、ISBN：978-4498428065、病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、監修：尾上 尚志 他、出版社：メディックメディア、出版年：2020年、ISBN：978-4896326864 (小児科) 標準小児科学第9版、監修：原 寿郎 出版社：医学書院、発行年：2022年10月 ISBN 978-4-260-04781-4 (脳神経外科) 脳神経外科学第13版、原著：太田富雄、出版社：金芳堂、出版年：2021年、ISBN：978-4-7653-1865-5、脳卒中治療ガイドライン 2021(改訂 2025)、編集：日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会、出版社：協和企画、出版年：2025年、ISBN：978-4-87794-241-0			
【成績評価方法及び評価の割合】			
講義項目の2/3以上の出席が無ければ、受験資格を与えない。コース最後に筆記試験を行い、その結果と能動学習評価を総合的に判断して可否を決定する。総合的に60%の得点で合格とする。			
【注意事項】 履修の手引きの「大分大学における学修の成績評価基準等に関する規定」に基づき、評点及び評価基準に従い実施する。評価基準の判定は、学習態度(講義とアクティブラーニング発表会の出欠状況、実習の態度、アクティブラーニングの発表内容などを含む)を参考に行う。			
【備考】 最終時間割はコース前に配布する。			
リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	○	医師	
教員の実務経験	附属病院において医師として勤務		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×		
教員以外の指導に関わる実務経験者			
実務経験をいかした教育内容	臨床で経験する様々な疾患の病態や、その診断法、治療法の講義を行う。		
授業形態	対面授業		